

王侯貴族に愛された、絢爛豪華な「百花の王」

牡丹は、中国を原産国とする花です。古来より「百花の王」と呼ばれ、薬用に観賞用にと広く親しまれてきました。絢爛豪華な花容から「富貴花」とも称され、財産・繁栄・名誉・幸福をもたらす縁起の良い花として、今日もなお、愛されています。

日本には奈良時代に伝来したとされ、平安時代に著された枕草子や蜻蛉日記にも登場しています。その後、宮廷や寺院を中心に栽培されましたが、多くの品種が生み出されるようになったのは、庶民の園芸文化が花開いた江戸時代のことでした。文学では季語として多くの俳句に読まれたほか、絵画や文様、家紋のモチーフにされたことから、その人気の高さがうかがえます。

春のぼたん祭

4月中旬から5月中旬にかけて開催される「春のぼたん祭」。新緑に囲まれた苑内では、枯山水の日本庭園に植栽された樹齢40年以上の大株牡丹をはじめ、中国品種やアメリカ、ヨーロッパ作出の品種を含めた110種600株以上の牡丹が艶やかに咲き誇ります。芍薬、華鬘草、石楠花など春を彩る多様な花々も、お楽しみいただけます。

- ① 券売所
- ② 石楠花エリア
- ③ 縁台
- ④ 原種・特大株・中国ぼたんエリア
- ⑤ 海外品種エリア
- ⑥ 俳句所
- ⑦ お手洗い
- ⑧ 藤棚
- ⑨ お休み処（売店）
- ⑩ 日本庭園



毎年元日から2月中旬まで当苑でご覧いただける牡丹には、「冬ぼたん」と「寒ぼたん」の2種類があります。

牡丹には早春と初冬に咲く二期咲きの品種があり、このうち低温で開花した冬咲きのものが「寒ぼたん」と呼ばれています。気候に大きな影響を受けるため、着花率は2割以下と低く、咲かせるのが極めて困難となっています。それに対して、春と夏に寒冷地で開花を抑制し、秋に温度調整して冬に開花させるという特殊な栽培の技術を用いて咲かせたものが「冬ぼたん」です。

花の少ない冬、縁起花として新春に華やぎを添えるため、丸2年を費やし育成される「冬ぼたん」。藁囲いの下で楚々と咲く可憐な姿は、見る人の心を魅了します。



島大臣



花王



連鶴



聖代



まりも



島錦



黄冠



鎌田藤



八千代椿



戸川寒（寒ぼたん）

※入苑券は当日限り有効です。
 ※出口からの入苑はできません。
 ※春の最盛期のイメージです。

「冬ぼたん」と「寒ぼたん」